



若葉小だより

特別号

令和 8 年 2 月 2 日
調布市立若葉小学校
校長 内藤 みゆき

HP <http://www.chofu-schools.jp/wakaba-sho/> E-Mail wakaba-sho@chofu-schools.jp



「令和7年度 若葉小学校学校評価アンケート」について（集計結果等）

表題の件についてご報告させていただきます。保護者、地域の皆様にはご多用の中、貴重なご意見をお寄せいただきありがとうございました。本校では、学校・家庭・地域の連携を大切にしながら教育活動を推進していきたいと考えており、学校生活の主役である子どもたちの参画意識や主体性を育てていきたいとの観点から、児童（全学年）・保護者及び地域・教職員の三者で同じ内容のアンケートを実施しております。（回答者に合わせて、主語など多少文章を変えています。）

以下、アンケートへの回答に対する結果と考察をまとめましたので、ご覧ください。これを踏まえ、次年度の教育活動をさらに充実させるべく教育計画を立案してまいります。

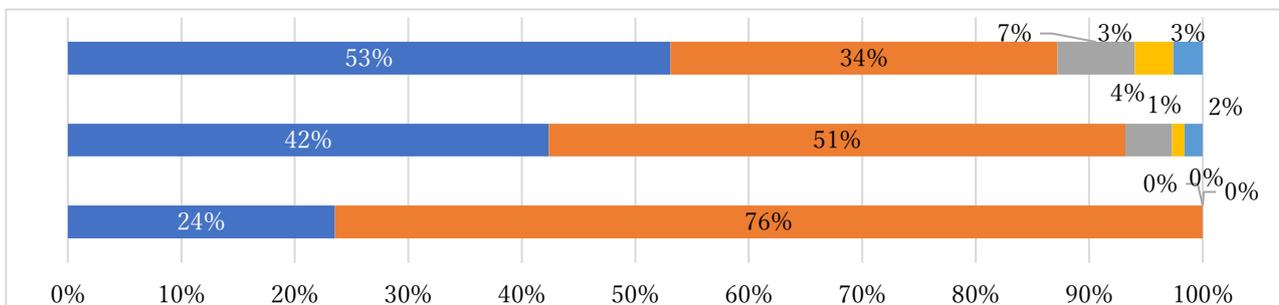
引き続き、本校の教育活動にご理解とご協力をいただけますよう、お願いいたします。

集計結果 児童（全学年）からの回答 【回答率 91%】
保護者・地域からの回答 【回答率 64%】
教職員からの回答 【回答率 100%】

● とても思う ● 思う ● あまり思わない ● 思わない ● わからない

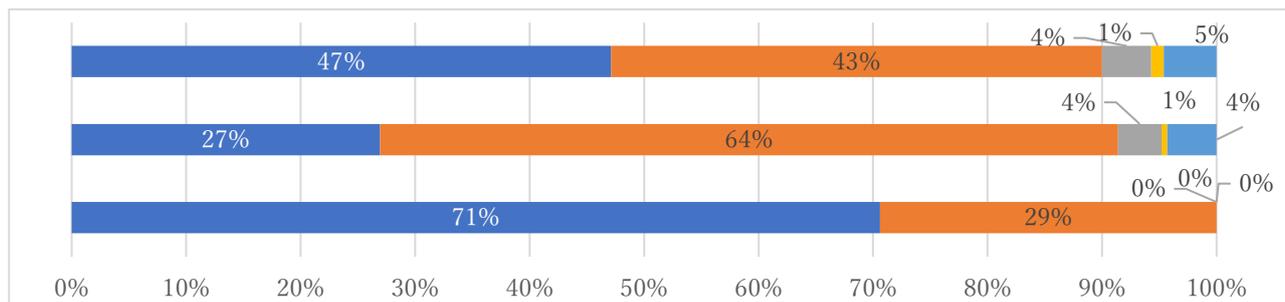
◎ 以下、棒グラフは、上から順に「児童（全学年）」「地域・保護者」「教職員」の回答となっております。（なお、「教職員」には、教員以外の様々な職種の職員も含まれています。）

①【学校は楽しい】学校の友達に会ったり、日常生活を送ったりすることを楽しみにしながら学校に行っている。



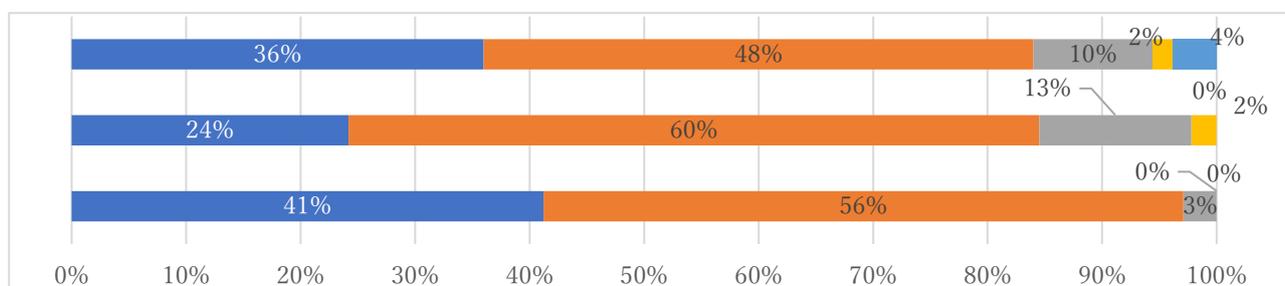
児童・保護者・教職員のいずれにおいても肯定的な回答が85%を上回り、多くの児童が友達との関わりや日常の学校生活を楽しみに登校している様子がうかがえます。保護者からは、学校行事や日々の学習活動を通して、子どもが前向きな気持ちで学校に通っているとの声が寄せられました。一方で、楽しいと感じにくい児童がいることも踏まえ、学校生活全体の充実を引き続き進めていきます。

②【自他の尊重】自分と他者とは違いがあることを理解し、多様性を尊重しながら互いを大切にしようとしている。



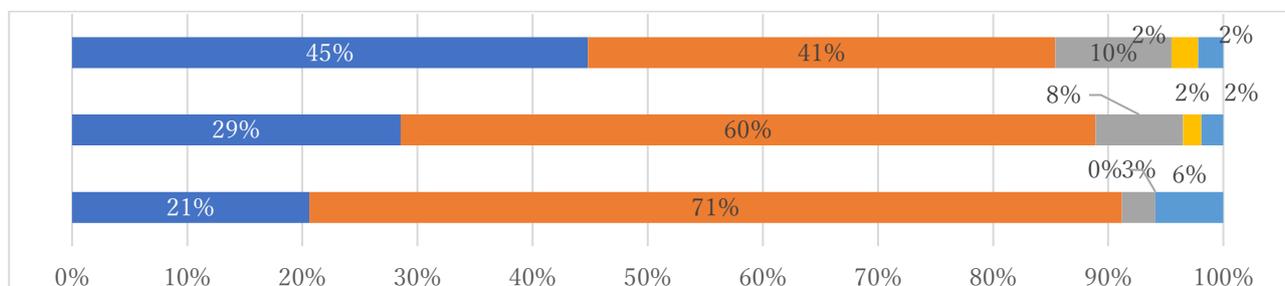
児童・保護者・教職員のいずれにおいても肯定的な回答が高い割合を示し、自分と他者の違いを理解し、多様性を尊重しようとする意識が育まれていることがうかがえます。保護者からは、友達関係の中で思いやりをもって関わろうとする姿が見られる一方、言葉の使い方や関係づくりに不安を感じる場面もあるとの声が寄せられました。年3回の「ふれあい月間」や道徳科の学習を通して、互いを大切にす態度の育成を引き続き進めていきます。

③【基本的な生活習慣】決まりや約束を守る意識をもっており挨拶をしたり、時間を守ったりするなどの基本的な生活習慣が身に付いている。



児童・保護者・教職員のいずれにおいても肯定的な回答の割合が高く、基本的な生活習慣が身に付いてきている様子がうかがえます。一方、保護者からは、授業中の様子、友達同士や大人への振る舞い・言動について心配する声も寄せられました。学校では、こうした状況を踏まえ、児童一人一人の行動の様子を丁寧に見取りながら、場に応じた行動や規律ある生活態度の育成に向けて保護者の方々と連携を図りつつ、粘り強く対応していきます。挨拶についても、挨拶運動をはじめ日常的に指導を行っているものの、児童全体への定着には課題が見られます。また、登校時刻を守れず、遅刻ぎりぎり登校する児童もいることから、学校での指導に加え、ご家庭のご理解とご協力をいただきながら、生活リズムの改善と基本的な生活習慣の定着を進めていきます。

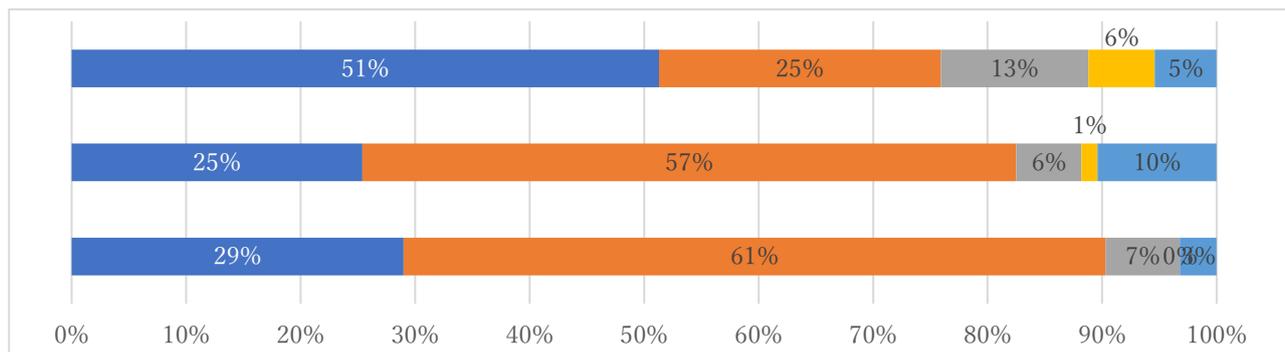
④【基礎的な学力】基礎的な学力を身に付け、「わかった」「できた」といった達成感を味わっている。



児童・保護者・教職員のいずれにおいても肯定的な回答が85%を上回り、基礎的な学力の定着が進んでいることがうかがえます。全ての児童が「わかった」「できた」という達成感を味わえるよう、個別最適な学びや協働的な学びを意識した授業改善に加え、校内研究を通して全職員が主体的な学びの在り方を共有し、指導方法の工夫やICT機器の活用に取り組んできました。今後も、授業の質を高め、学習内容の確実な定着を図っていきます。

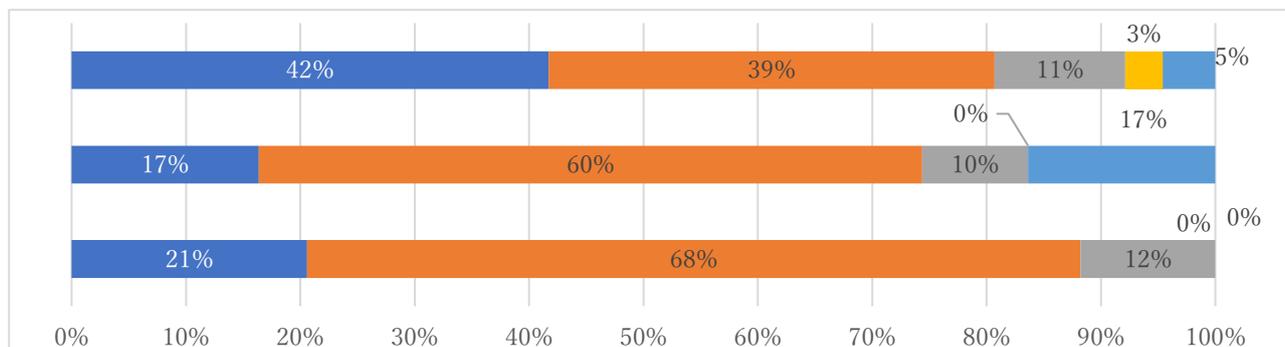
⑤【算数科習熟度別の指導】算数科での習熟度別による指導は学習効果があると思う。

(3～6年生回答)



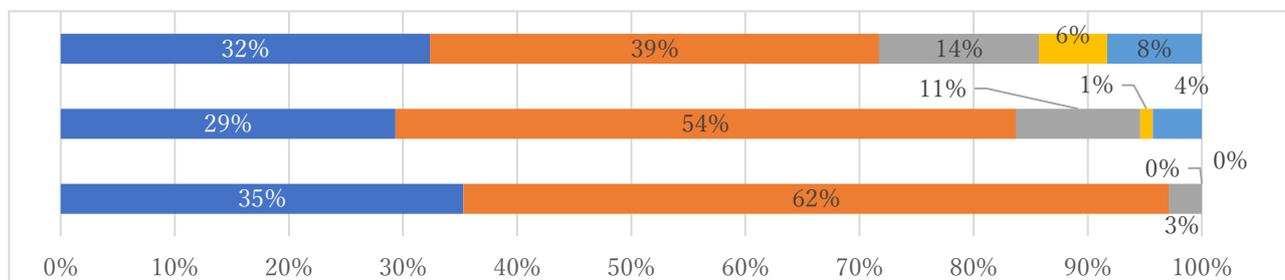
児童の回答では、算数科における習熟度別の指導が学習に効果的であると感じている割合が高く、一定の成果がうかがえます。一方、4・6年生においては、教職員の病気休暇等の影響により、習熟度別学習を十分に実施できない時期がありました。算数は学習内容の積み重ねが重要な教科であることを踏まえ、指導体制の工夫を図りながら、今後も児童一人一人の理解の状況に応じた、きめ細かな指導に努めていきます。

⑥【体験的な学習活動】地域の特色を生かした教材やゲストティーチャーによる出前授業等、体験的な学習活動を充実させている。



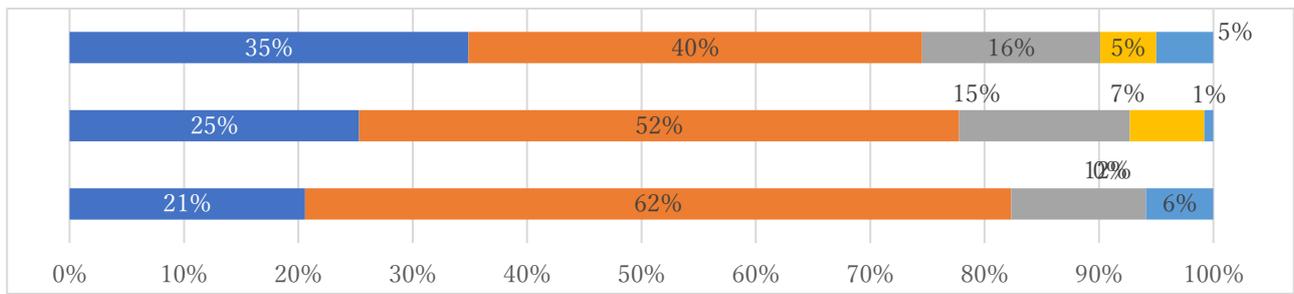
児童・教職員と比べ、保護者・地域における肯定的評価はやや低い傾向が見られました。本校では、地域学校協働本部と連携し、地域の特色を生かした教材の活用や、地域人材による出前授業を数多く取り入れるなど、体験的な学習活動の充実を図ってきました。こうした取組を通して、児童が実体験をもとに学びを深められるようにしています。今後も、学校での実践を丁寧に積み重ねるとともに、その様子を積極的に発信し、理解の促進に努めていきます。

⑦【褒められている】周囲から認められたり褒められたりする経験をしており、主体的な活動への動機付けになっている。



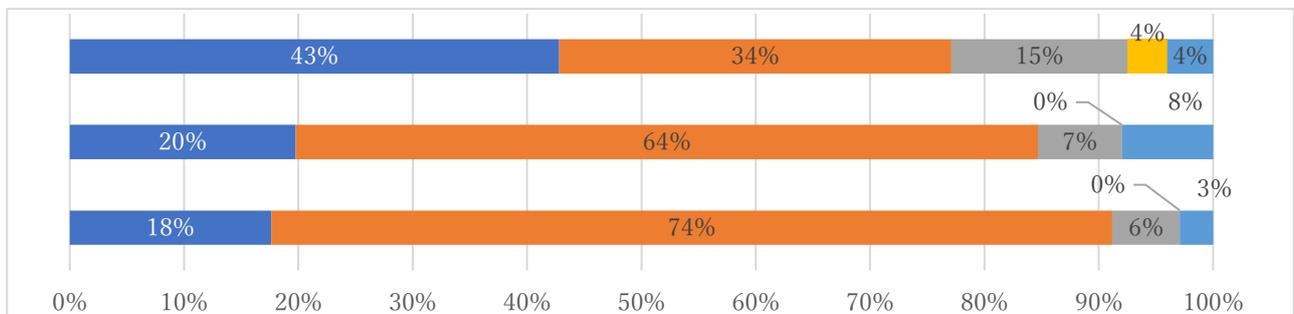
児童の肯定的回答は前年度より約10%低下しましたが、保護者・地域を含めた全体では約83%の肯定的評価を得ています。保護者からは、「先生が一人一人の長所に目を向け、頑張ったことやできたことを認めてくれることで、自信につながっている」との声が寄せられました。一方で、児童が周囲から認められていると実感できる場面の在り方について、改めて見直す必要も示唆される結果となっています。今後は、日常の授業や学校生活の中で、教員の意図的な声掛けや児童同士が認め合う機会をより丁寧に設定し、活動への意欲の向上を図っていきます。

⑧【家庭学習】宿題等の家庭学習にしっかりと取り組み、学習習慣を確立させている。



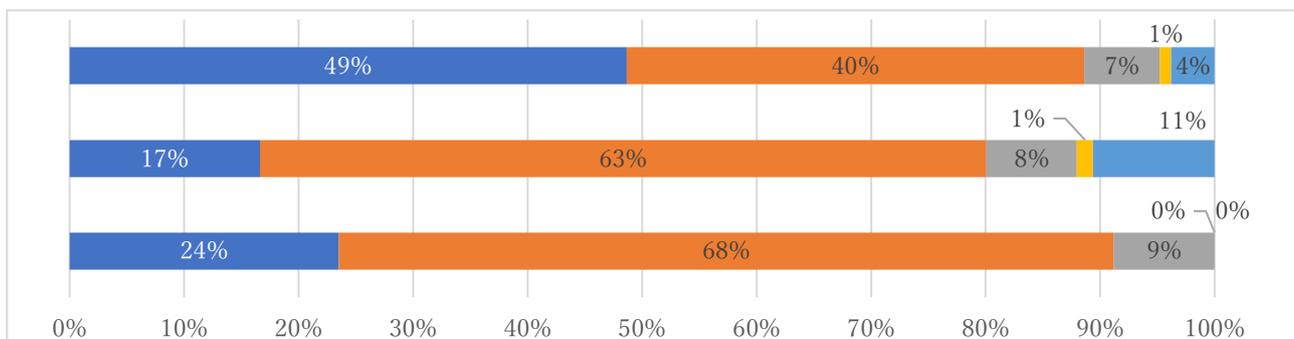
児童・保護者・地域のいずれにおいても肯定的な回答は昨年度に続き70%台となりましたが、数値はわずかに上向いており、家庭学習の取組が少しずつ定着してきている様子が見えます。一方で、学習習慣のさらなる定着には継続した取組が必要です。学校では、宿題や自主学習の進め方について丁寧な指導を行い、学年に応じた学習習慣の形成を図っていきます。家庭におかれましても落ち着いて学習に取り組める環境づくりや、継続を支える声掛けについて引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

⑨【健やかな体作り】体育科授業の充実や屋上の運動場化、縄跳び月間、「わかちよこ」、保健指導の実施、食育の推進などを通して、健やかな体を作る取り組みや指導を行っている。



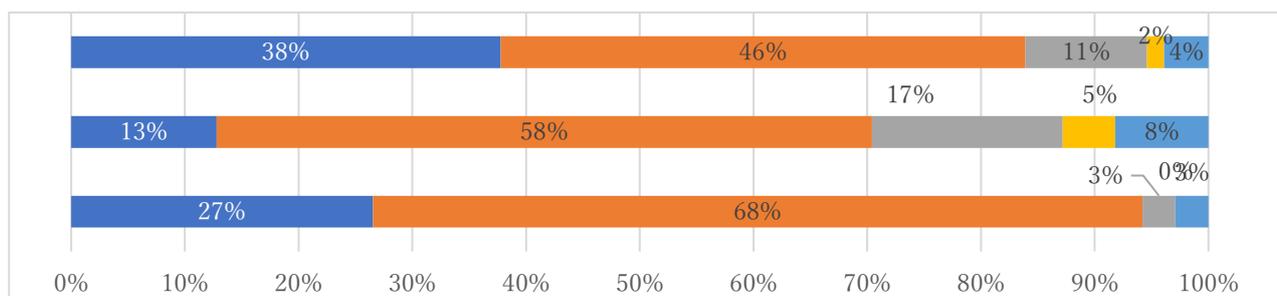
児童の肯定的評価は昨年度に続き70%台となっており、一定の成果が見られる一方、さらなる向上が課題です。2学期には四中遊びが新校舎建築工事に伴い実施できなくなりましたが、その代替として屋上を開放し、屋上遊びができるよう工夫しています。あわせて、体育科授業の充実や縄跳び月間、保健指導、食育の推進に加え、隙間時間に行う運動「わかちよこ」を新たに取り入れました。今後も、限られた環境の中で運動機会を確保し、児童が主体的に健やかな体づくりに取り組めるよう工夫を重ねていきます。

⑩【安全・安心な環境】安心・安全な環境を整えるために校内施設や設備等の整備や保守に努め、安全に関する知識や実践力を身に付けさせる指導を行っている。



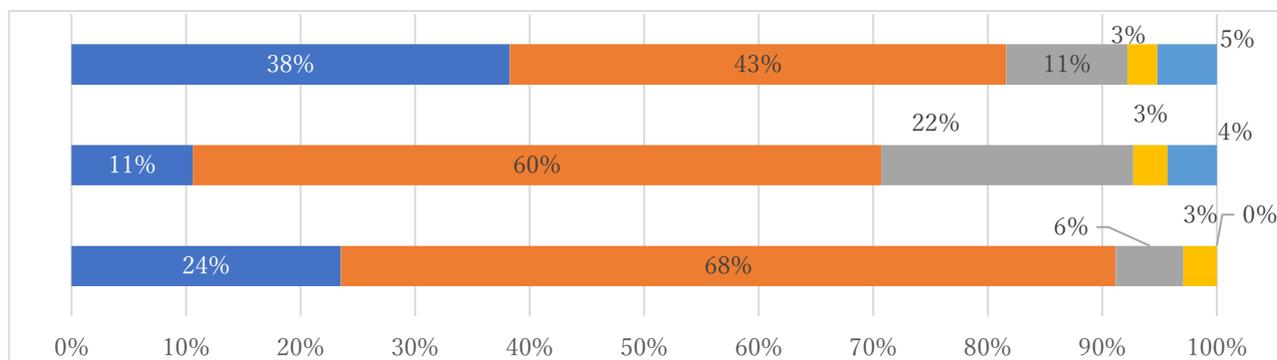
児童・保護者・教職員いずれにおいても肯定的な評価が高く、安心・安全な環境づくりへの取組が一定程度評価されています。日常的な点検と即時対応に加え、月に一度、全教職員が分担して複数名で安全点検を実施しています。また、火災・地震・水害・不審者対応等を想定した避難訓練を月1回行い、事前・事後指導を発達段階に応じて行ってまいりました。今後も災害や事故への備えを確実に進め、児童が安心して学校生活を送ることができる環境づくりに努めていきます。

⑪【言語活動】 授業中の意見交流など、言葉による表現活動への意欲や技能が向上している。



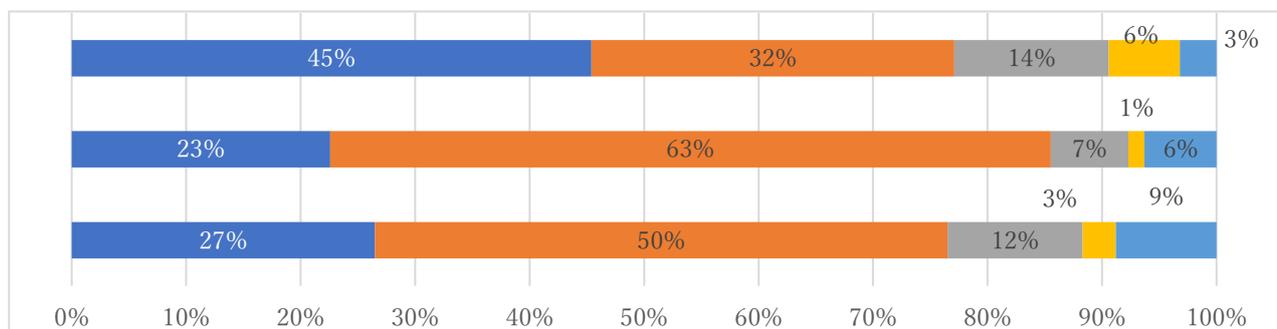
保護者・地域の肯定的評価は昨年度と同程度で推移しています。学校では、各教科の授業において隣同士やグループでの話し合い活動に加え、タブレット端末を活用した意見交流を多くの学級で取り入れ、考えを可視化し共有する学習を進めてきました。一方で、言葉による表現力や伝え合いの深まりについては、引き続き工夫が必要であると受け止めています。今後も国語科をはじめ各教科の授業の中で、言語活動の充実を図っていきます。

⑫【言語活動】 時と場に応じた適切な言葉遣いが身に付いている。



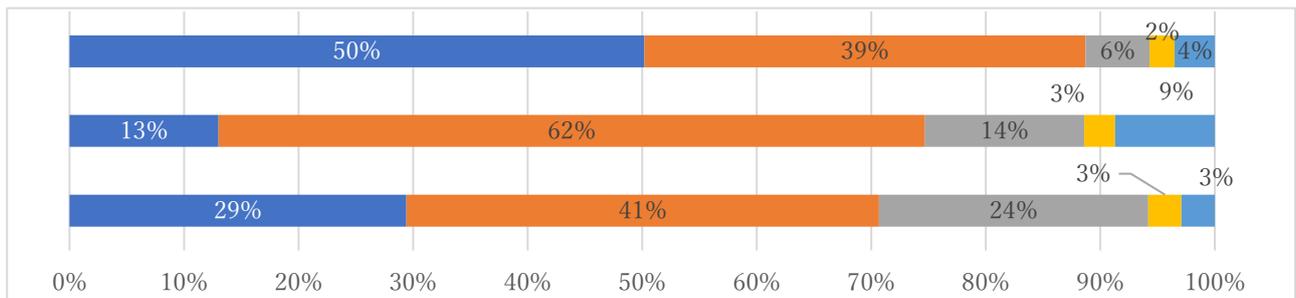
学校では、授業中の発言や行事等の場面において、時と場に応じた適切な言葉遣いができるよう日常的な指導を行っています。一方、保護者の評価は昨年度同様に低い水準にあり、学校内外での児童の言葉遣いについて課題に感じておられる方が少なくないことがわかります。言葉遣いは学校だけでなく、家庭や地域での関わりの中で育まれるものであることから、より一層ご家庭とも連携しながら、学校生活の様々な場面で適切な言葉遣いを意識し、実践できるよう継続した指導を行っていきます。

⑬【読書活動】 読書旬間や読書月間、図書委員会による集会や読み聞かせ、毎週の「おはよう読書」等を実施し、読書活動を充実させている。



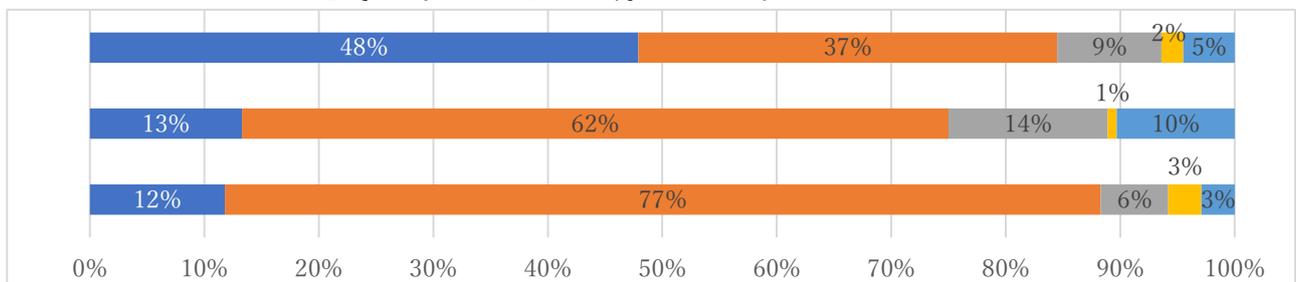
児童の肯定的評価は 77%，保護者の肯定的評価は 86%となり、いずれも昨年度とほぼ同程度の結果でした。学校では、読書旬間や読書月間、図書委員会による集会、「おはよう読書」の取組に加え、保護者の皆様による読み聞かせなどを通して、読書の楽しさに触れる機会を継続的に設けてきました。一方で、児童によって読書への関わり方に差が見られることから、今後も日常の中で本に親しむ時間を大切に、児童一人一人が読書のよさを実感できるよう工夫を重ねていきます。

⑭【ICT 機器の活用】 iPad 等の ICT 機器を積極的に活用しながら教育活動を行っている。



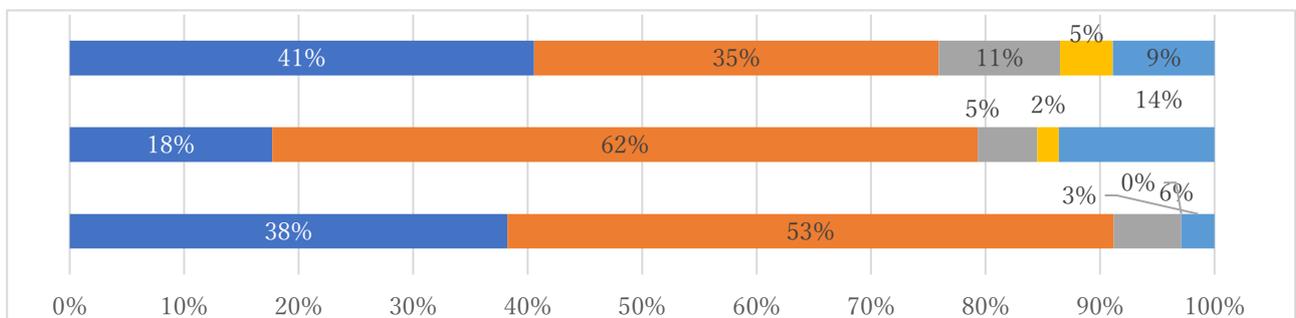
児童の肯定的評価は昨年度より微増し、89%となりました。学校では、国の GIGA スクール構想に基づき、低学年の段階からタブレット端末を教育活動に活用し、個別最適な学びや協働的な学びの充実を図っています。一方、保護者の肯定的評価は 75%となっており、低学年から端末を持たせることへの不安や心配の声も見られました。その一方で、「思っていたよりも子どもがタブレット操作に早く慣れていた」といった前向きな意見も寄せられています。今後は、学校での活用のねらいや学習への効果を丁寧に発信し、保護者の理解を得ながら、より適切な ICT 活用を進めていきます。

⑮【ICT 機器のルール】 学校は、iPad 等の ICT 機器や SNS の使い方のルールを示し、情報モラルを身に付けさせようと努めている。



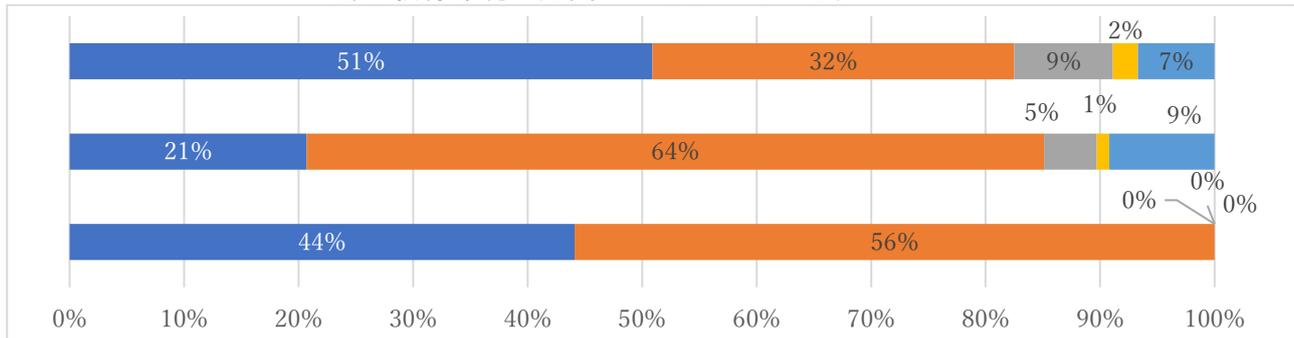
保護者・地域からは一定程度の肯定的な評価が見られる一方で、自由記述には「iPad など ICT 機器の使い方や SNS のルールについて、学校での指導をより丁寧に行ってほしい」「小学生に iPad を持たせることに不安がある」といった意見が寄せられました。このことから、家庭における ICT 機器や SNS の使い方について、対応に迷いや不安を感じている様子もうかがえます。学校では、低・中・高学年の発達段階に応じた「タブレット活用のルール」を共通理解として定め、学期に数回 ICT 朝会を実施し、正しく安全に使用するための指導を続けてきました。今後も、学校と家庭が同じ視点でルールを確認し合いながら、ICT 機器を適切に活用できる力の育成を進めていきます。

⑯【相談体制】 学校は、教員だけではなくスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーター、特別支援教室専門員、のがわ教室巡回指導教員等の人材を活用し、一人一人のニーズに合わせた相談しやすい体制を整えている。



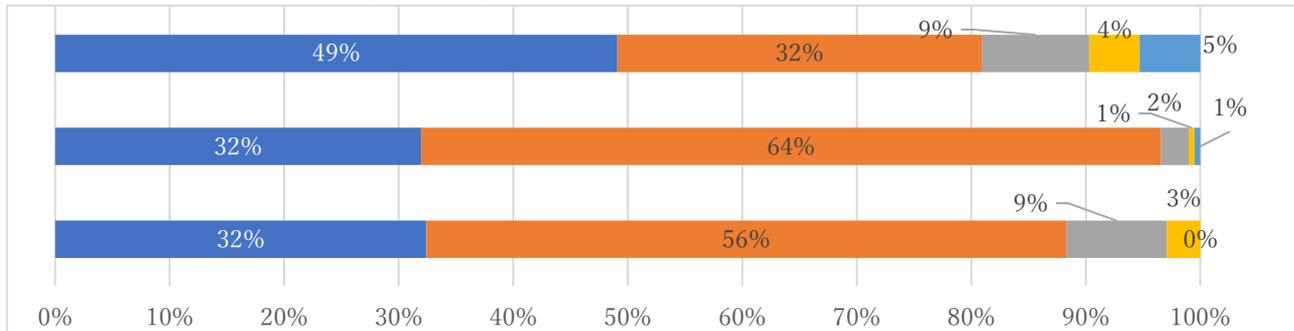
保護者・地域の評価は昨年度と同程度で推移しており、児童の肯定的評価は微増しました。一方、「わからない」と回答する割合が一定数見られますが、これは現時点で相談を必要としない家庭や児童にとって、相談体制を意識する機会が少ないことによるものと受け止めています。学校では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育コーディネーター、のがわ教室巡回指導教員などの専門人材を活用し、必要に応じて相談できる体制を整えています。今後も、必要な時に安心して相談につながるよう、相談体制の内容や相談方法について、分かりやすい周知に努めていきます。

⑰【地域学校協働本部】 学校運営協議会や PTA と連携しながら実施している地域学校協働本部の活動（漢字検定・花壇整備・地域人材を活用した学習支援や見守り等のボランティア・教員と連携したゲストティーチャーの招へい等）が、教育活動や教育環境の充実につながっている。



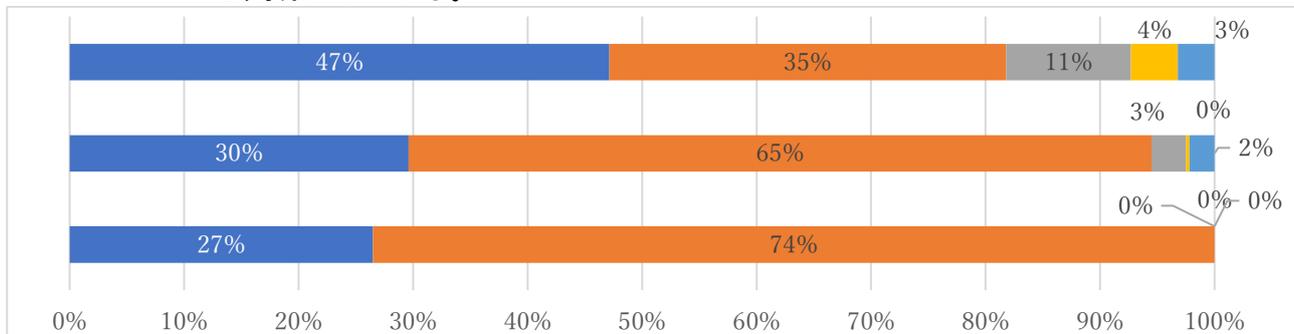
保護者の肯定的評価は昨年度より5%増加しており、地域学校協働本部の取組が、教育活動や教育環境の充実につながっていることの周知が広がりつつある現状がうかがえます。学校では、地域学校協働本部と連携し、漢字検定や見守り活動、地域人材を活用した学習支援、教員と連携したゲストティーチャーの招へいなど、多様な取組を行ってきました。今後も、学校の教育活動の目的に応じて地域の力を生かしながら、学校と地域が協働する取組を継続し、より一層の充実を図っていきます。

⑱【開かれた学校】 施設面等の課題がある中でも工夫しながら学校行事や学校公開等を実施し、開かれた学校を目指している。



施設面等に制約がある中でも、学校公開や学校行事を工夫して実施し、開かれた学校づくりを進めてきました。特に、第四中学校と連携し、校庭や体育館を使用させていただくことで、教育活動や行事を円滑に行うことができた点について、保護者から一定の評価をいただいています。さらに、クラブ活動においては、NTTの施設を活用するなど、地域資源を生かした取組も進めています。今後も、保護者や地域の理解と協力を得ながら、本校の実態に応じた工夫を重ね、開かれた学校づくりを継続していきます。

⑲【情報発信】 ホームページ（「学校生活の様子」など）の更新、学校だより、学級通信、「すぐーる」、保護者会等を通して学校の様子や情報を発信し、保護者・地域の方々との連携を大切にしている。



保護者からは、学校だよりや学級通信、「すぐーる」を通じた情報発信について、全体として高い評価をいただきました。一方で、「すぐーる配信が多く感じられる」「学校ホームページの更新が少ない」といったご意見も寄せられています。学校では、必要な情報を確実に届けることを大切にしつつ、配信内容や頻度について工夫を重ねていきます。また、ホームページについても、学校生活の様子がより伝わるよう、掲載内容や更新の在り方を見直し、分かりやすい情報発信に努めていきます。

ご多用の中、ご協力いただきありがとうございました。今後の教育活動に活かしてまいります。